

NEWS

国立新美術館ニュース

2014
—夏号

www.nact.jp

ピカソやマティス、
ココ・シャネル
をも魅了した
伝説のバレエ団
「バレエ・リュス」とは

音声ガイド出演

熊川哲也さん
インタビュー



新

THE
NATIONAL
ART CENTER,
TOKYO

国立新美術館

レオン・バクスト「青神」の衣裳（部分）（《青神》より）1912年頃 オーストラリア国立美術館

EXHIBITION

展覧会

日本最大級の展示スペースを生かし
多彩な展覧会を開催しています

「魅惑のコスチューム：バレエ・リュス展」では、20世紀初頭に活躍した伝説のバレエ団「バレエ・リュス（仏語：ロシア・バレエ）」の日本初公開コスチュームを中心に、その魅力の全貌に迫ります。

バレエ・リュスの仕掛け人、
ディアギレフ

ロシア地方貴族出身のセルゲイ・ディアギレフは、1906年パリでロシア美術を紹介する大規模な展覧会を開き、反響を呼びました。当時、フランスのバレエが衰退し

レオン・バクスト
「音神」の衣裳（部分）（音神より）
1912年頃 オーストラリア国立美術館

ピカソやマティス、
ココ・シャネルをも魅了した
伝説のバレエ団
「バレエ・リュス」とは



レオン・バクスト、アレクサンドル・ニコロ
「不死身のカステイの従者」の衣裳
（火の鳥より）
1910年 オーストラリア国立美術館

ていたことに目をつけた彼は、1909年にロシア・バレエをパリで紹介します。異国情緒あふれる官能的な主題やバクストの舞台美術の鮮烈な色彩は、パリの観衆を驚かせるものでした。それが今回の展覧会の題材である「バレエ・リュス」の始まりでした。

若手前衛アーティストたちとバレエ・リュス
ディアギレフの慧眼により作曲家のストラヴィンスキーをはじめ、当時の若手前衛アーティストたちの才能が次々と発掘され、積極的に取り入れられていきました。

オーギュスト・ペール
「薔薇の精」— ニジンスキー
1913年 オーストラリア国立美術館



バレエ・リュスの楽屋に足繁く通うピカソ
当時パリに住んでいたパブロ・ピカソも
バレエ・リュスの舞台美術や衣裳デザ
インに参加します。最初の妻オリガ・ホ
フロワがバレエ・リュスのダンサーだっ
たため、楽屋へも頻繁に通い、ダンサー
たちの着替え姿などをスケッチしていた
ほど。バレエ・リュスという存在はピカソ
にとっても身近なものとなっていました。

レオン・バクスト
「女王タマルの友人」、
「女王タマル」、「レスギ
ン人」の衣裳（タマル
より） 1912年頃
オーストラリア国立美術館



シャネル、ピカソ、マティスらによる コスチュームデザイン

オリエンタリズムへの関心が強いア
ンリ・マティスも、バレエ・リュス
の舞台衣裳を手掛けています。その
他にもココ・シャネル、ジョルジョ・
デ・キリコ、レオン・バクストなど、
今となっては豪華な顔ぶれのアーティ
ストたちが関わり、シャネルにいたっ
ては厳しい経済状況にあった同バレエ団の
パトロンとなって活動を支えました。本
展では、制作年順にバクストらの東洋や
ロシア、ギリシアをテーマにしたオリ
エンタリズム、1910年代後半に参加した
ピカソやマティス、ドラン、1920年代
のロシア・アヴァンギャルドなど、各時
代の特徴をご覧ください。

CURATORS' VOICE



国立新美術館主任研究員・
本展担当者の本橋弥生に
見どころを聞いてみました。

出展しているコスチュームの数々は、
バレエ・リュスの現存する資料の中
でも、とても重要なものです。バレ
エ・リュスの映像もほとんど残されて
いませんし、作品自体が形として残ら
ない舞台芸術であるため、現代に生き
る私たちはその遺された資料を手掛か
りに当時を想像することしかできません。
しかし、今回は実際にダンサーが
身に着けて踊っていた、色鮮やかなコ
スチュームを展示することにより、写
真などの複製からでは感じることの
できないものを、よりリアルに想像し
ていただけるのではないかと思います。
ディアギレフを筆頭に、当時の芸術家
たちが新しいものを求めて果敢に挑戦
していた前衛的総合芸術バレエ・リュ
スの精神を、ぜひ肌で感じていただ
ければと思います。

魅惑のコスチューム：バレエ・リュス展

会 期：2014年6月18日（水）—9月1日（月）
休 館 日：毎週火曜日、ただし、8月12日は開館
開館時間：10:00~18:00 ※入場は閉館の30分前まで
金曜日、8月16日（土）、23日（土）、30日（土）
は20:00 まで開館
会 場：国立新美術館 企画展示室1E

EDUCATION

教育普及

美術に親しむワークショップや講演会の開催、鑑賞ガイドブックの配布などを行っています

この夏は国立新美術館で アートをもっと楽しもう！

国立新美術館では、毎年夏休みにあわせて子どもから大人までだれもが楽しめるさまざまなイベントを開催しています。この夏も、「魅惑のコスチューム：バレエ・リュス展」や「オルセー美術館展」の関連講演会やワークショップなど、アートに親しむ企画が盛りだくさん。また、バレエ・リュス展会場では、展覧会についてわかりやすく紹介した子ども向けの鑑賞ガイドを無料配布しています。そのほか、夏休みの恒例イベント、「こどもたんけんツアー」を今年も開催！美術館で働くスタッフと一緒に、普段は見るこ

ができないバックヤードをめぐる。真夏も涼しい美術館。でも、いつもそこはアートの熱気であふれています！2014年の夏、国立新美術館でアートとの出会いを楽しんでみませんか。



夏休みこどもたんけんツアー 2013の様子

バレエ・リュス展関連ワークショップ 2.5D 着られるイラスト バレエ・リュス ペーパーチュニック コレクション 2014

日時：7月26日(土)

13:30-17:00

対象：一般（12歳以上）

企画協力：文化学園大学大学院

グローバルファッション専修

夏休みこどもたんけんツアー 2014

日時：8月1日(金)、4日(月)

11:00-12:30

対象：小学校3年生～6年生

いずれも事前申し込み制です。その他のイベント情報や申し込み方法については、国立新美術館ホームページ (<http://www.nact.jp/>) や館内のチラシをご覧ください。

LIBRARY

情報資料

国立新美術館では
美術の資料や情報を収集・公開しています

もっと知りたい！ アートライブラリー 「建築」「写真」「デザイン」… いろいろ、あります

「開架N」へようこそ

アートライブラリー(美術館3階)に入って左奥に、小さな部屋があります。ここには、「建築」、「写真」、「デザイン」等の図書が並んでいます。蔵書検索(OPAC)で調べると所在の欄に「国新美術館開架N」と表示される資料は、ここにあります。国立新美術館を設計した黒川紀章氏をはじめとする建築家たちの作品集、写真集、メディアアート関連やグラフィックデザイン関連の本など、狭い



アートライブラリー(美術館3階) 開架N入口

スペースではありますが、ぎっしり中身が詰まっています。

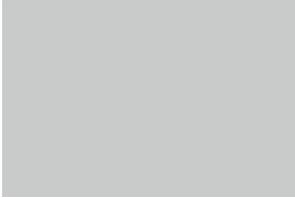
少し奥まっているので、入っていか迷われるかもしれませんが、どうぞ一歩足を踏み入れてみてください。

展覧会特集コーナー

アートライブラリー(美術館3階)では、開催中の展覧会に関連する資料の特集コーナーを設けています。7月から9月にかけては、「パレエ・リュス展」、「オルセー美術館展」、「チューリヒ美術館展」に関連する資料をご紹介します。ぜひ、展覧会とあわせてご利用ください。



アートライブラリー(美術館3階) 展覧会特集コーナー



※本画像は著作権使用許諾の条件上、現在表示できません。

フレデリック・バジール《家族の集い》1867年
油彩/カンヴァス 152×230cm オルセー美術館
©RMN-Grand Palais (musée d'Orsay) /
Hervé Lewandowski / distributed by AMF

オルセー美術館展 印象派の誕生 —描くことの自由—

会 期：2014年7月9日(水)—10月20日(月)

休 館 日：毎週火曜日、ただし、8月12日(火)、9月23日(火・祝)、
10月14日(火)は開館、9月24日(水)は休館

開館時間：10:00～18:00 ※入場は閉館の30分前まで
金曜日、8月16日(土)以降の毎週土曜日および10月12日(日)
以降は毎日20:00まで

主 催：国立新美術館、オルセー美術館、読売新聞社、日本テレビ
放送網

会 場：企画展示室2E

本展は、パリ・オルセー美術館所蔵の名画84点によって、印象派が誕生した19世紀後半のフランス絵画の動向を紹介するものです。マネ、印象派のモネやドガ、レアリズムのミレーやアカデミズムのカバネルなど、時代を代表する画家たちの傑作が出品されます。



アンリ・ルソー《X氏の肖像 (ピエール・ロティ)》
1906年 チューリヒ美術館
©2014 Kunsthaus Zürich. All rights reserved.

チューリヒ美術館展 —印象派からシュルレアリスムまで

会 期：2014年9月25日(木)—12月15日(月)

休 館 日：毎週火曜日、ただし、10月14日は開館

開館時間：10:00～18:00 (金曜日は20:00まで)

※入場は閉館の30分前まで

主 催：国立新美術館、朝日新聞社、テレビ朝日、BS朝日

会 場：企画展示室1E

本展では、チューリヒ美術館のコレクションをまとめた形で初めて紹介します。印象派からシュルレアリスムまでの近代美術の歴史を辿ると同時に、ホドラー、クレー、ジャコモッティなどスイスゆかりの作家の代表作をご覧頂きます。



会場内の温度についてのご注意

当館では作品保護の観点から会場内の温度を一定にしています。

ご観覧の際は体温調節しやすい服装でのご来館をお勧めいたします。

公
募
展

「一陽会」

公募団体等の活動

美術団体、一陽会は昭和30年（1955年）に結成され、本年10月国立新美術館に於いて創立60周年記念展を迎えます。絵画・版画・彫刻の三部門からなる委員、会員、会友、一般出品者、総勢500余名、出品点数およそ550点の進取の気性に富む現代感覚に溢れた美術展として定評をいただいています。

全国組織からなる支部・グループ活動、巡回展（大阪・石川・富山等）支部展、研修会、講習会も活発に開催、新人に広

く門戸を開いています。一陽会の特色は、設立宣言文に「清新にして深奥…尖鋭なる未完成こそ推薦し、前人未踏の新分野の確立に努力する」を座右の銘として、作家同士のより親密な仲間作り、新人育成に取り組んでいます。その試みとして新設の創立会員の名を冠した賞、一陽会のシンボル・スカラベ賞の他、優秀作品に相応の各賞があります。公募に関しては一律の出品料で出品点数は無制限、大学生以下の出品料は一般応募者の半額とし、やはり点数に制限なくチャレンジが出来ます。

国立新美術館の一陽展の1室・7室の大空間は鑑賞する人々に新鮮な興味と驚きを持って迎えられ、開館以来大きな話題となり今日に至っています。

（一陽会事務所 運営委員 細川 尚）



〔2013 第59回一陽展ギャラリートーク〕

館内レストラン&カフェにて、 「オルセー美術館展」と 「バレエ・リュス展」特別メニューを販売

館内4店舗で、「オルセー美術館展」にちなんだ特別メニューを販売します。名画の数々を鑑賞した後、その余韻と共に、舌でもお楽しみください。なお、3つのカフェでは、「バレエ・リュス展」にちなんだ特別ドリンクも販売します。



3F「フランスリー ボール・ボキユーズ ミュゼ」のオルセー美術館展特別メニュー

うつわ、ロマンティック ちいさな鉢と片口のうつわ展 6月11日(水)～8月18日(月)

器は出会いからはじまり、日々の食卓で使うたびにここをとときめかせる存在です。なかでも小鉢や片口は、主役を引き立て、脇をしめる大切な器です。器を丁寧に選び、愛情を注ぐと、食べることがもっと愛しくなります。うつわ、ロマンティック。使うたびにときめく。SFTギャラリーでは今回、小鉢と片口をご紹介します。



ディレクション 祥見知生(うつわ祥見)

PICK UP

ピックアップ

「魅惑のコスチューム: バレエ・リュス展」 音声ガイド出演の熊川哲也さんにインタビュー

本展の音声ガイドでは熊川哲也さんの解説や楽曲が充実しています。〈音声ガイド：550円(税込)〉「バレエ・リュスの魅力はオリジナルの作品を20年間発表し続けたこと、それも当時活躍していた画家、音楽家、振付家、ダンサー各分野の素晴らしいアーティストが結託して作品を生んだ憧れの時代背景にありますね。」と語る熊川さん。こちらのインタビューの続きは展覧会Facebookでご紹介しています。
<https://www.facebook.com/balletsrusses.the.art.of.costume/>

